

幼児の指絵について

小西勝一郎
並河信子

はじめに

R・ショウによって創案された指絵には、在来の描画材とは違つた、いくつかの特徴がある。それは直接手や指でもってかかれ、道具を使用する複雑な技術を必要としない。だから、手指のコントロールの乏しいごく幼い子どもでも、なんの抵抗感なしに容易にかけ、正しい絵画的表現の学習をかなり早くから始めることができよう。また指絵には、どのようにかくのがよいかという規準とか、社会通念がないから、まずくかいてもそれほど気にならず、自由にのびのびした表現が楽しめるよう。さらに、子どもは汚い遊びを好むものがあるが、それは一般におとなによって禁ぜられることが多い。指絵は「どろんこの孫」だといわれるように汚い遊びであるが、いつも抑圧されがちな子どもの要求や感情は、この社会的に認められた

指絵活動のうちに、なんの不安も感ぜず解放させられるであらう。それは子どもに大きい満足感を与えるものであって、ここに指絵の精神治療的、また診断的価値がみられる。

このようなユニークな特性をもつ指絵が、幼児保育の教材として、また診断治療の有効な手がかりを与えるものとして、研究され応用されたことはいまでもない。この点に関する文献も多い。私たちが幼児の指絵に関心をもったのもここにあったのであるが、指絵を教育や治療に應用する際、なお検討の余地の少なくないことを忘れてはならない。以下私たちの研究を中心に幼児の指絵における若干の問題を考えてみよう。

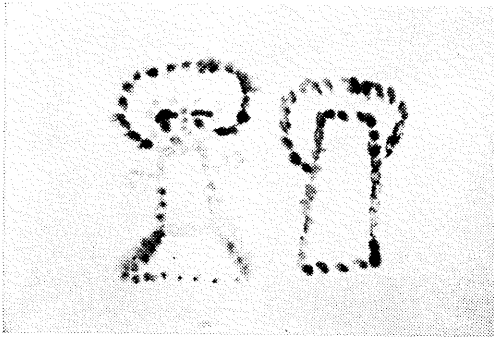
幼児はどんな表現をするか

たいていの幼児は指絵を好むものである。はじめての子どもは人

(第1図) 幼稚園児(女)
赤・黄・緑・青・紫・茶・黒・白色使用、内容模様



(第2図) 幼稚園児(女)
赤・黄・紫・茶・黒色使用、内容人形



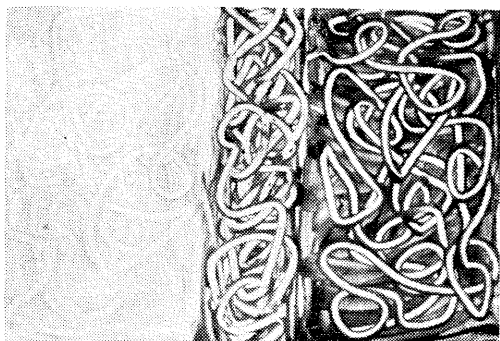
(第3図) 幼稚園児(男)
青・茶色使用、内容 自分と弟



差指をつかって、ややためらいながらかきだすかもしれない。しかしやがて興にのつてくると、いろいろな色彩、こぶしや手のひらをつかって、なでたり、こすったり、消したり、かいたり、各人各様の多様な興味ある表現をするものである。絵の具が顔や衣服についてたことも知らず、紙がぼろぼろに裂けるまでかき続けるものもある。かくというよりむしろ遊んでいるといった方がびったりすることも多い。第一、二、三図は幼稚園一年保育児のかいた例である。このように、幼児の指絵といってもさまざまな特色があつて、ひと

- くちにその特徴をのべることはできないが、年長児のそれと較べるとかなりはつきりしてくる。この点について私たちは、L・H・ブルムらの方法に準じて幼稚園一年保育児の指絵を小学三、六年生のそれと比較したことがあるが、その結果幼児の指絵活動の大きい特徴は次の通りであつた。すなわち、幼児に
- (1)、こすりひろげる運動が多い。
 - (2)、水、手ぬぐいの使用が少ない。
 - (3)、衣類をよごすことが多い。

(第4図) 小学3年生(女)赤・黄・紫色使用、内容 模様



(第5図) 小学6年生(男)

赤・橙・黄・緑・紫・茶・黒色使用、内容 夕やけ



(4)、表現内容が客観的に理解しにくい。
(5)、描画時間が短い。

この結果はもちろん実験場面のもとに得られたものであることを注意しなければならぬが、要するに幼児の指絵活動は年長児のそれにくらべ年令相応に未熟さがあらわれている。幼稚園の教師のうちには、幼児の指絵が年中ぬたくりになる、複雑なものがかけない、すぐかきあげてしまうなどの疑問をもつものがあるが、それは幼児にとって不当な要求といえないこともない。単なる美術的見地

からすれば、指絵の有効な利用はもっと年長児にしてはじめて可能である。第四、五図の小学生の絵と比較されたい。なお、この調査において、幼児のえがく指絵の内容には、クレパス絵と違って客観的に不明瞭なものが多く、クレパス絵に比して、指絵は表現するというより画面で遊んでいる様子が観察されている。したがって、指絵はクレパス絵に比すると、表現技術が劣るといえないことはない。この点に関して、V・ローエンフェルドは、「子どもが二―四才

のころの汚いものへの欲求が強い時には、ドロドロの感触を与える指絵の具はその欲求を解放させるに適しているが、その段階から生長して何か道具を使用したい欲求をもつようになる、指絵はかえって前段階への退行を意味し、正常な発達を遅らせるものだ」とのべている。こう考えると前述の幼児の指絵がクレパス絵に比してきわめて未熟なことは、指絵がローエンフェルドのいうように一年保育の幼児に不適當だからともとれよう。先の教師の疑問、ぬたくりとか、すぐあきるといふことも、あるいはこれにあたるとも考えられる。期待したような表現のできない単調な指絵に失望を感じることも当然あることである。ローエンフェルドの説はさらに検討を要するところであるが、教師として子どもの要求や興味に適した描画材を常にあたえるよう注意することも必要であろう。

ちなみに、私たちが担任教師によって保育しにくいと評定された幼児と通常の幼児に対し、比較的長期にわたり指絵をかせ、その前後における行動特性を調べたところ、前者には改善進歩の率が高く、後者ではかえって消極的效果を認めた。ローエンフェルドの説を肯定する傾向を示したのであるが、実験対象も少なく、もっとよく分析しなければならぬことである。

しかしながら、ローエンフェルドの説が正しいとしても、それは決して指絵の教育的価値をそこなうものではない。ショウも、「指絵はミルクと同じように、子どもが生長するにつれて必要でなくなるかも知れない。しかしその経験は将来の芸術的表現の基礎となるものである」と述べている（宮武氏訳「フィンガーペインティングについて」参照）。長してもミルクを必要とするものもあるように、特定の抑圧された感情を指絵によって解放させる必要のある子どもも案外少なくないであろう。

指絵と幼児の性格

指絵の診断的、治療的価値については、ショウをはじめその他の多くの人びとによってかなり多くの研究がなされてきている。とくにP・Jナポリは描画活動の初めより終りにいたる個人の全体的行動をとりあげ、性格との関連において組織的な分析をおこなっているが、なお統計的な確証は今後にまたざるをえない現状である。一

般に指絵に限らず性格の診断はかならずしも容易でなく、幼児を対象とするときは一層困難になるものである。私たちも指絵の研究を、主として診断の面にそそいできたのであるが、なお、一致した結果をうるにいたっていないし、これをここでくわしく検討する余裕をもたない。

そこで、ここでは先に私たちが日本社会事業大学の石井、藤原氏らとタイアップしておこなった幼児保育施設の指絵の実態調査（未発表）から、指絵を好んで描くものと、いやがる子どもの性格にはどんな違いがあるかを調べてみることにする。両者に含まれる子どもの性格としては次の通りであった。（数多い順から）

指絵を喜んでする子ども——元氣活発で行動的、独創的、思想的、自我が強く社会性がなくて活動力がありすぎる、抑圧的欲求不満をもっている。

指絵をいやがる子ども——神経質、消極的、潔癖で社会性が劣る。内向的、陰気、無感動。

この結果からすれば、指絵をきらうグループにむしろ問題の子どもが含まれているようである。指絵本来の特性からすれば、このような問題のグループにこそ、たびたび描かせてみたいものである。なおこの実態的調査において教師が指絵を実施してどんな点に効果があったかと思っているかをしらべたところ、次頁表の結果をえた。もちろん教師の主観によったのではあるが、積極的になったという

効果が第一位をしめて
いる。指絵をきらう問
題のグループにもおそ
らく効果をもつに違
ない。もちろん強制を
することは望ましくな
いが、巧みな教師の指
導によっては、指絵の

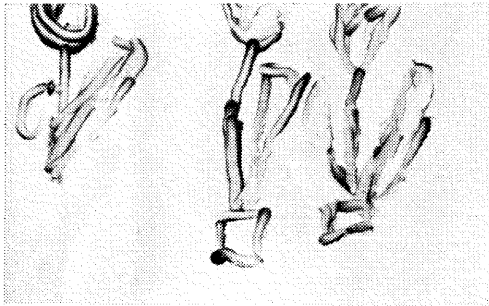
活動的效果を大いに發揮さすこともできるのではあ
るまいか。なお、指絵を喜ぶグループに欲求不満に
悩む子どもが含まれていることは興味深い。

特殊児の指絵

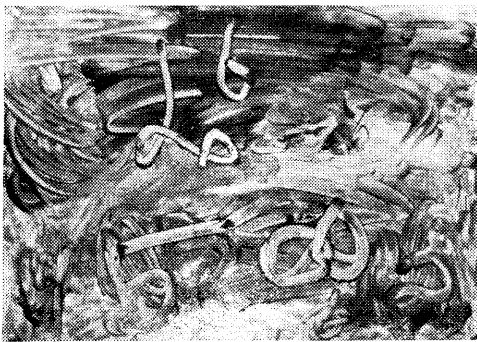
指絵を人格診断に応用するとき、特殊児童の指絵
の特徴を理解しておくことは有利であろう。幼児を
対象としたものではないが、山田聖子氏が年令と知
能（精薄弱児を除く）とをほぼ等しくした正常児と比
較しているから、この結果を最後にあげて参考に供
したい。

精神薄弱児の指絵は、一般に描画の時間が短かく、
手の運動の種類、使用する絵の具の色数が少なく、画

教師のみた指絵の効果 (回答実数57)	
積極的になった	25
造形的創造性に対し	16
コンプレックスの解消	12
満足感をあたえた	5
概念くだきができる	4
のびのびとした絵になる	4
その他	5



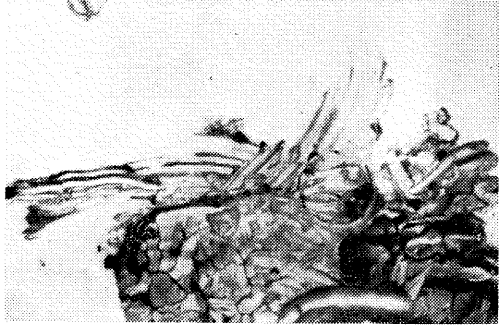
(第6図) 精薄弱児(女) 12才3月 I Q 53 黒色使用



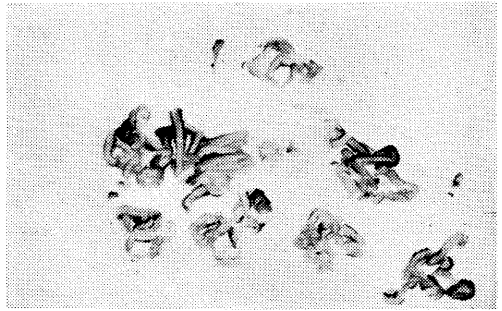
(第7図) 精薄弱児(男)
12才5月 I Q 61 赤・黄・橙・青・緑・紫・黒色使用

面全体に混色する傾向がある。描画中の水、布の使用が少なく、描かれた内容も漠然としているものが多い。つまり精神内容の貧困から、すべての描画活動が幼稚である。(第六・七図参照)

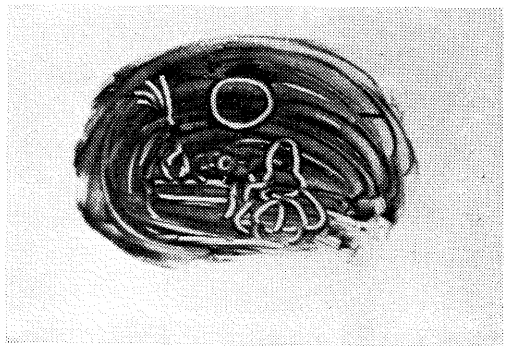
精神病児(主として小児分裂病)の指絵の特徴は、人数が少なかつたため統計処理をおこなっていないが、人差指のみで単色で描くことが多く、描画面積が狭く、内容も支離滅裂であつて、一見異様な感じを与える。最初に橙色をとるものが多いようである。(第八、九図参照)



(第8図) 小児精神分裂症児(男) 5才6月
赤色使用、内容不明



(第9図) 真性てんかん児(男) 14才青色使用、内容不明



(第10図) 栄養発育不良児(男) 11才7月IQ128
紫色使用、内容 お月見

虚弱児（結核、発育不良、心臓疾患、一般的虚弱）の指絵の特徴としては、単色でかくものが多く、描画時間が短かく、画面の混色が多し。青、茶、黒色はあまり用いない。（第十図参照）

むすび

以上私たちは幼児の指絵における若干の問題について考えてきたが、なお保育の実際において研究しなければならない点が多い。いづれにしてもその長所短所をじゅうぶん認識しておき、また絵の具

の品質、付属品、あるいは指導の方法などいろいろくふうすることも大切であろう。

（社会事業大学児童相談室、大阪市立大学児童学研究室共同でおこなった「指絵の実態調査」に御協力下さった、保育園・幼稚園の先生がたに紙上をかりて厚く敬意を表させていただきます。）

（大阪市立大学）